

感染症解析部

感染症解析担当

- ① 製造販売後安全管理(GVP)に関する調査, ② 感染症検査陽性血液の解析

① 製造販売後安全管理 (GVP) に関する調査

輸血後感染症が疑われた場合に、献血者の保管検体や受血者検体を用いて輸血が原因かどうかを調査しています。

② 感染症検査陽性血液の解析

献血時の感染症検査で陽性となった血液の詳細な解析を行い、献血者におけるウイルス(HBV、HCV、HIV、HEV、HTLV-1など)感染動向を調査しています。これらは、輸血用血液製剤の安全対策を講じる上で重要なデータとなります。

また、感染症検査陽性検体をパネル化し、検査試薬や検査機器の評価や改良、国内外の感染症検査標準品の作製などに役立てています。

【最近の研究】 HIV-1陽性献血者におけるサブタイプ解析

- 2017-2021年に検出されたHIV-1陽性献血者検体を用いて、HIV-1サブタイプの解析を行いました。
- HIV-1陽性献血者数は、2008年のピーク時(2.11人/10万人)と比較すると、陽性者数・頻度ともに半減していましたが、直近5年間は横ばいで、年齢構成や性比に大きな変化はありませんでした。
- 主要なサブタイプはBでしたが、約10年前の調査時(2009年～2012年)と比較すると、その占有率は90.6%から78.5%へ減少し、中国やタイなどで流行している組換え体(CRF01_AE)やその他の海外流行株の割合が増加していました。
- これらの株がどのような感染ルートで献血者に広まっているのかを含め、今後も感染動向を注視していく必要があります。

